



NEWS LETTER No. 9

ニ ユ ー ス レ タ ー

教育における ICT 活用

「教育実践と省察のコミュニティ 2013」開催

8月11日、12日に「教育実践と省察のコミュニティ 2013」が長崎大学教職大学院で開催された。今年度で4回目の開催、テーマは「教育における ICT 活用」である。初日は、「教育実践研究コミュニティながさき」と題して、本学院生のパネル展示による研究経過報告とディスカッションが行われた。同報告は、最終成果として次号ニューズレターに掲載予定である。次に、長崎県立五島海陽高等学校長・地頭菌健司先生により「長崎県で期待される実践研究と教職大学院の役割」と題する講演が催された。また、本研究科を修了した現職教員と在学院生との間で実践研究をめぐるディスカッションも行われた。

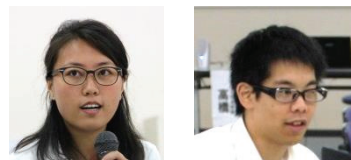
2日目は、奈良教育大学の小柳和喜雄先生による基調講演「近年の教育情報化政策および教育の情報化に関わる実践研究の動向」、富山大学の高橋純先生によるワークショップ「わかりやすい授業づくりのための ICT 活用」、長崎大学教育学部附属小学校の才木崇史先生、佐賀市立赤松小学校の横地千恵子先生、長崎県教育庁の西川卓也先生によるシンポジウム「ICT 活用教育研究の種を見つけよう」が開催された。いずれの発表でも、教育実践と理論の融合を目指して参加者間で活発な議論が繰り広げられ、情報交換も盛んに行われていた。

大学院生による省察の成果

才木先生他のシンポジウムについて

学校運営・授業実践開発コース 修 裕 慧

長崎大学教育学部附属小学校の才木先生は理科の立場から ICT が学校現場に適用するメリットと効果の可能性、「ICT 活用による小学校理科授業」について発表した。今後の課題として ICT の活用と教育現場へいかに拡充していくかを話された。佐賀市立赤松小学校の横地先生は最新のタブレット PC の活用動向及び今求められる学校で進める実践研究の種について発表した。誰でもできるような ICT 機器操作、分ける授業から考える授業への転換、協働的な学びを意識することを話された。長崎県教育委員会の西川先生は本県の現状、ICT 推進事業について提案された。「学校における教育の情報化の実態等に関する調査」より課題は普通教室の ICT 化にあることが提示された。また、附属学校の先行実践の公開、タブレット PC の一斉授業における活用方法の研究、大学生の ICT 機器操作スキルアップなど期待したいことも話された。学力向上と ICT 活用の有用性について今後検討してみたいと感じた。



TOU Touei TAHARA Satoshi

小柳和喜雄先生のご講演に参加して

子ども理解・特別支援教育実践コース 原田 智志

小柳和喜雄先生は講演の中で ICT の様々な活用パターンを示してくださり、活用の余地がまだ多分にあることを改めて感じた。その活用パターンの中に「課題の提示」があったが、これらは私も実習で使った手法である。ただ、特に ICT 活用という気張った考えのもとで用いたのではなく、より子どもに伝えやすいようにという考えから用いた。しかしこれも立派な ICT 活用であるというお話を聞き、自分が思っているほど ICT 活用の教居は高くないということを知った。ただし、あくまでも子どものために使うものなので、活用の目的を明確に持つとともに、子どもの実態に合わせて使用する機器や使用する科目、タイミング等を吟味することが必要である。さらに IEA が進める ICILIS という取組等から、これからは教員の ICT 活用能力だけでなく子どもの ICT 活用能力も問われるようになるということ、教師は勿論、子どもの ICT 活用能力を高めることも今よりもっと重要になってくるだろう。

小柳和喜雄先生のご講演を聞いて

国際理解・英語教育実践コース 宮地 太士

現在、政府は教育の情報化により①校務の情報化、②教科指導における情報技術の活用、③情報教育（情報活用能力の育成）の3つの側面を通して教育の質の向上を目指している。①、②は、ハード面の改善によってその目標が達成されることとなる。しかし、③は、何を持って児童生徒の情報活用能力が改善されたという指針があやふやなものであった。今後は、情報化授業によって児童生徒にどのような力がついたのかということ測定し、評価していくということである。また、今まで教育学において定義が不明確であった情報活用能力を測っていく場合、その背景となる教育学それ自体も見直す必要がある。そのような教育の変化に対応するために、将来教育の担い手となる院生たちは「学習の姿」を思い浮かべ授業設計について仲間と共に執拗にまで考えを巡らすことが大切である。それにより、我々はより良い情報化教育の実践を可能とすることができるということであった。



MIYAJI Taishi HATAJIMA Hidefumi

シンポジウム「ICT活用教育研究の種を見つけよう」に参加して

学校運営・授業実践開発コース 畑島 英史

才木崇史先生の現場での活用、横地千恵子先生の ICT 推進の先行実践及び長崎県教育委員会の西川卓也先生の ICT 推進事業の発表が終わった後、会場からの質問を受けた。子どもが ICT を使いこなすために必要な指導、ICT 教材の製作とその共有、ICT の絶対的必要性が話題となった。一言前とは違って、パソコンや携帯電話が普及し、今やインターネット、メールも身近な存在となっている。そんな中で子どもたちは、幼少期から ICT 環境に順応した学習が必要であると感じた。また、共有サーバーやメーリングリストなどの環境を整備することで教材の共有化が図れ、子どもの学習もさらに充実したものとなるであろう。子どもにどんな力をつけたいのか吟味し、目的を達成するための1つの手段として、ICT を活用することを忘れてはならない。一方で経験の豊富な教師は、ICT が無い時代に教育方法を模索し、自己の教育哲学を確立しているのも事実であると思った。

地頭菌健司先生のご講演を聞いて

理科・ICT 教育実践コース 江口 凌

本日は地頭菌先生に「学校経営の最前線、日々、思うこと」という題で講演をしていただきました。講演には地頭菌先生の勤務されている学校の出来事を多く取り入れられ、具体的なイメージを持ちながら聴くことができました。私は、学部を卒業して教職大学院に入学しました。そのため、現場を知らない状態で実践研究を行っていくことになりました。正直、現場経験のない私の実践研究が果たして意味はあるのかと考えたこともありましたが、「実践研究はすぐに効果が出るものでもなく、答えのないものである」という言葉から、私なりの実践研究を行っていくと思いました。また、教職大学院の課題の一つとして、各学校からの理解が十分に得られていないことが挙げられます。卒業生が教職大学院のことを現場で伝え、理解を図る必要があると感じました。今後も、学校現場にとどく実践研究を目指し、日々研鑽していきたいと思っています。



EGUCHI Ryo INOUE Aiko

高橋純先生ワークショップの感想、意見、コメント、展望

子ども理解・特別支援教育実践コース 井上 亜衣子

本ワークショップでは、ICT 機器を使用する意義について考え直すことができました。高橋先生には様々な例を示しながら具体的に分かりやすく説明をしていただき、ICT 機器の中でも、特に実物投影機を用いた授業の在り方について多くの示唆を得る内容であった。ワークショップの中では、実際に教科書などを拡大提示するときの留意点を教えていただき、実際に各グループで体験することもできました。高橋先生のお話の中で特に印象的だったのは、「(実物投影機を用いて)何を映すかは教師の腕次第」であり、「ICT を使うのは、教師が指導し、子どもが活動する時間を充実させるため」だということである。つまり、あくまで ICT 機器は教師を支えるツールであり、本当に大切なのは教師の指導力や教材研究、授業の構成などの「内容」の部分ということであろう。また、通常学級での特別支援教育の充実のためにも、ICT 機器は有効であるということ改めて感じた。

◆ポスター発表による研究成果の中間報告 〈子ども理解・特別支援教育実践コース〉

- 岩坪 和美
英語の授業で積極的に取り組めない生徒に対する支援の在り方についての実践研究
- 浦山 由美子
小中連携における課題把握と改善への取組
～特別支援コーディネーターの立場から見て～
- 佐藤 一郎
高校生の進路意識向上への取り組み
- 福田 和代
特別支援学校における児童の行動問題に対する積極的行動支援
- 大浦 理麻
個のニーズに応じた計算指導の実践研究
- 佐々木 洋光
特別なニーズを要する児童が在籍する通常学級における学級適応力の育成に関する実践
- 田原 智志
ICT を通じた共同学習による自己肯定感の育成
～共同制作を取り入れた授業づくりを中心に～
- 八田 佳子
望ましい人間関係を育むためのクラスワイドな支援の実践
- 桑野 友裕
生徒指導の内容を踏まえた運動部活動指導の研究
～自己指導力を育む運動部活動指導～
- 古賀 喜子
自動の学級適応力を高めるための教育的介入の実践
～絵本の読み聞かせを用いて～
- 寺田 充希
特別支援学校におけるキャリア教育
～ソーシャルスキル教育を活用した指導実践～

〈学校運営・授業実践開発コース〉

- 岩尾 勇希
郷土愛を育む道徳教育の研究
～登下校を活用した実践の提案～
- 木下 功大
ルーブリックを活用した指導と評価の一体化
- 貞松 孝明
歴史的分野における論理的思考力の定着を図る授業実践
～中学校社会科における実践を通して～
- 吉田 誠也
ICT を利用して習得を目指す授業設計の在り方について
～「教えて考えさせる授業」の「理解確認」までの段階に焦点をあてて～
- 峰 希美
コミュニケーション能力の素地を養うための協同学習を取り入れた授業の研究
～外国語活動の授業実践を中心に～

〈国際理解・英語教育実践コース〉

- 佐々木 有夏
まとまりのある英文を書く力を高める授業づくり
- 前田 悠太
活用に結びつくための英文法指導の在り方について
- 中村 麻美
小学校外国語活動における効果的なツールの在り方についての研究
～音声と意味の統合を目指して～
- 宮地 太士
英文音読指導の授業実践の研究
～読解速度と内容理解の度合いの向上を目指して～

◆ポスター発表の総括と討論

コメンテーター 根津 正二郎 教諭 (佐世保市立広田中学校)
猿渡 京 教諭 (長崎県立鶴南特別支援学校)

◆講演

「長崎県で期待される実践研究と教職大学院の役割」
地頭菌 健司 校長 (長崎県立五島海陽高等学校)

◆基調講演

「近年の教育情報化政策および教育の情報化に関わる実践研究の動向」
小柳 和喜雄 教授 (奈良教育大学)

◆ワークショップ

「わかりやすい授業づくりのための ICT 活用」
高橋 純 准教授 (富山大学)

◆シンポジウム

「ICT活用教育研究の種を見つけよう」
才木 崇史 教諭 (長崎大学教育学部附属小学校)
横地 千恵子 教諭 (佐賀市立赤松小学校)
西川 卓也 指導主事 (長崎県教育庁義務教育課義務教育班)